

のバランスで健康づくり

【女性の尿漏れ】筋肉に元気をつけて持ち上げる！

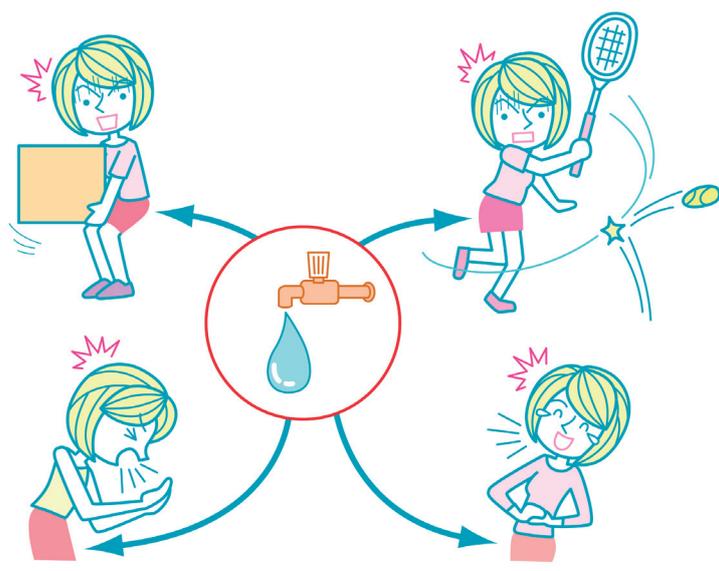
女性の患者さんで「尿漏れ」で悩んでおられたり、また他の病気で受診中に、実は「尿漏れ」でも困っていて漢方で何とかならないか、という相談があります。多くは咳やくしゃみをした時、大笑いをした時に、症状がみられるようです。

漢方では、この様な症状をどのように判断して治療に結びつけるか考えてみましょう。

その前に、現代医学ではどのように判断し理解しているか見てみましょう。

- ① もともと女性は、男性に比べて尿道が短く、「尿漏れ」を起こし易い。
- ② 女性は、妊娠や分娩によって起こし易くなり、また更年期以降に多く見られること。
- ③ 膀胱や子宮・直腸を支えている骨盤底筋群の筋肉の低下（ゆるみ）が考えられること。
- ④ 咳・クシャミ・大笑いなどで腹圧がかかることで、骨盤底筋群のゆるみがあると「尿漏れ」が発症し易くなってくる。

そこで、漢方の治療としては、これらの筋肉群のゆるみを補強強化することが治療となります。



これを現代医学風に表現すると、筋肉の低下によってゆるみが生じた膀胱や骨盤底筋群の筋肉に活力を与え、同時に上に向かって引張り持ち上げることによって「尿漏れ」を治すということになります。

数多くの漢方薬の中で、補強強化の効果を持つ漢方薬として柴胡（サイコ）と黄耆（オウギ）が上げられます。

「柴胡」
呼吸器系障害の改善によく使われますが、ここでは柴胡が持つ「升挙陽気」という薬理作用（効果）を利用します。

「黄耆」
人参と同じように元気を補う漢方薬ですが、ここでは「補気昇陽」という薬理作用（効果）を利用します。

そこで、この柴胡と黄耆の組み合わせで「元気を上げて持ち上げよう」という効果を狙い、この2つを配合した漢方薬のファースト・チョイスが「補中益気湯」になります。

漢方では、体全体の機能バランスを重視します。この「尿漏れ」の例でも広く泌尿生殖系の働きの障害ととらえ、合わせて冷え性などのチェックも重要になってきます。

